

第3WG 評価コメント

評価者のコメント(評価シートに記載されたコメント)

事業番号3-38 ライフサイエンス分野

(1)革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ

(ターゲットタンパク研究プログラム)

(2)革新的医薬品・医療機器の創出に向けた研究

分子イメージング研究戦略推進プログラム(第 期)

(3)感染症研究国際ネットワーク推進プログラム(第 期)

(革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ(ターゲットタンパク研究プログラム))

タンパク3000プロジェクトで目標通りに成果が出せず、ゲノム創薬の目的が失われた。基礎研究に立ち返ったとはいえ、本質的に構図が変わったわけではないため廃止。NMR99台を各所に入れたが、メンテナンスと研究データ取得ツールとしては老朽化したといえる。

プロジェクトとしての具体的な目標が不明確であり、なぜ5年なのかも説明不足である。検証し直すべき。その上で制度設計から見直す必要がある。

580億円も投入したプロジェクトの検証が不十分ではないか。一度プロジェクトを中止して、仕切り直しをすることが必要。

これまでの多額な支出に対して、その評価についても十分なレビューが行われていない中での新たな支出は相当部分圧縮する必要がある。

タンパク研究の重要性はあり、また成果は上がっているが、タンパク3000からの延長でここに大きな予算を集中することがベストかどうか。

力づくの研究を見直すべき。

省の枠を越えた制度改善が必要。経産省と別けて実施する合理性がわからない。方法や規模、対象を総合的に戦略的にとらえた資金供給をした方が効果的ではないか。

成果目標の設定とその評価、それに基づいたPDCAサイクルを明確に。

成果の評価が明確に見えない。

ターゲットを決め打ちで集中すべき。

(革新的医薬品・医療機器の創出に向けた研究 分子イメージング研究戦略推進プログラム(第 期))

理研、放医研とそれ以外の研究者とを資金的に区分するなど競争的資金の運用としては不明確である。一度コンセプト・制度を見直す必要がある。

第 期の検証が必要。その上で他省庁プロジェクトの研究を含め、事業の見直しが必要と考える。

第 期で医療的成果らしい結果が出なかったにもかかわらず、第 期がスタートしていることが悔やまれる。陽電子、PET の応用技術であるならば、診断治療で画期的成果が出なければ成功とは認められない。

厚労省の研究資金との一体的活用をする方が効率的・効果的ではないか。

成果目標及び到達期日を明らかにしてプロジェクトのメリハリをつけるべき。

これまでの研究について一定の成果はあるものの、その研究、設計のターゲットは充分でない点もある。政府他分野との重複もあるだけに削減が必要。

分子イメージングは重要な技術であり、着実に進めていく必要があり、その基盤はできている。とはいえ経費節減の努力を求める意味で削減。

もっと広範な参加(特に厚労省系)が必要ではないか。

新しい研究成果を出しているところの予算はあってもよい。

(感染症研究国際ネットワーク推進プログラム(第 期))

現状の規制枠をいかにして外し、国として一体となって取り組む覚悟が必要。

新しい感染症研究は必要であり、ネットワークを活かすことは重要。厚労省と連携することが前提。大学の能力を活かし、予算は削減努力して欲しい。

大学の国際研究協力が重点になっている。厚労省のもとで効果的にセンターをつくるべきではないか。

厚労省を含めた関係も明確でない。コンセプトももう一度考えた上で大きな削減を行うべき。

第 期の検証が必要。あわせて拠点をどのようにして機能させるのかの検証が必要。

国立感染症研究所と別系統のネットワークを構築することに必要性は感じられない。

国立感染症研究所に一極集中して効率化を図るべし。

厚労省のネットワークの他に別にもう一つつくる必要性はない。厚労省のネットワークを強化、拡大した方が効果が出るのではないか。

厚労省がすべき仕事

WGの評価結果

革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ
(ターゲットタンパク研究プログラム)

予算要求の縮減(2割～半額)

(廃止 1名、来年度予算計上は見送り 2名
予算要求の縮減 6名(半額 3名、1/3縮減 1名、2割縮減 2名))

革新的医薬品・医療機器の創出に向けた研究 分子イメージング研究
戦略推進プログラム(第 期)

予算要求の縮減(2割～1/3程度)

(来年度予算計上は見送り 2名 予算要求の縮減 5名(半額 1名、1/3縮減
2名、その他(2割縮減 1名、1割縮減 1名))、予算要求通り 2名)

感染症研究国際ネットワーク推進プログラム(第 期)

廃止又は予算要求の縮減(2割～半額)

(廃止 3名、来年度予算計上は見送り 2名、
予算要求の縮減 4名(半額 2名、2割縮減 2名))

とりまとめコメント

革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ(ターゲットタンパク研究プログラム))
については、廃止が1名、来年度予算計上は見送りが2名、予算要求の縮減が6名、そ
のうち半額程度縮減が3名、1/3程度縮減が1名、2割程度縮減が2名であった。共
通の評価としては、評価・検証が不十分ということで、見直し、圧縮が必要だとい
うのがほとんどだったので、この縮減をとって、2割～半額の縮減とさせていただ
きたい。

分子イメージング研究戦略推進プログラム(第 期)については、来年度予算計上は見

行政刷新会議「事業仕分け」

送りが2名、予算要求の縮減が5名、そのうち半額程度の縮減が1名、1/3程度の縮減が2名、その他2割減が1名、1割減が1名、予算要求通りが2名であった。これも目標、計画をもっと明確にしてほしいというのがほぼ同じ評価であった。その他いろいろあったがそれが共通した見方であった。このため、2割～1/3程度の縮減としたい。

感染症研究国際ネットワーク推進プログラム(第 期)については、廃止が3名、来年度予算計上は見送りが2名、予算要求の縮減4名、そのうち半額縮減が2名、2割縮減が2名であった。縮減、廃止と出てきた中身については、厚生労働省との連携、大学の能力を生かして縮減、あるいは、これそのものが厚生労働省の仕事ではないかというのが出ている。その評価を見て、厚生労働省との連携あるいは協力を前提として、廃止又は2割～半額の縮減とさせていただきたい。